

## 令和 3 年度までの実績と計画の乖離（下水道事業）

## 【収益的収支】

## ■ 下水道使用料

4 年続けて計画値を若干ながら上回る形で決算を迎えることができる見込みです。また、前期 5 年合計の計画値と比較すると、額で 6,500 万円、率にすると 0.96%の微増となり、概ね計画通りとなっています。

## ■ 営業費用

前期 5 年合計では、流域下水道維持管理負担金（污水处理費）の実績額が計画額を上回ったものの、管渠を維持管理するための経費や減価償却費、支払利息が下回った影響等により、全体で 1 億 2,900 万円下回る見込みです。

## 【資本的収支】

## ■ 企業債

令和 3 年度（予算）の借入額は 3 億 3,900 万円を見込んでおり、計画上の発行限度額である 4 億円以内に抑える予定です。また、当該年度の償還元金は 6 億 8,600 万円を見込んでおり、支払額に対しても下回っています。

## ■ 建設改良費

前期 5 年間の合計で約 12 億円の乖離が生じています。主な理由としては、ストックマネジメント計画に基づいて発生すると見込んだ幹線管路の改築工事の一部が調査の結果、実施する必要がなかったことから、管渠改築事業で 8 億 5,800 万円の乖離が生じたためです。

## 【財源の状況】

項 目	内 容	令和 3 年度（予算）
1 自己資金 （内部留保資金）	令和 8 年度末に残高 7 億円を確保します。	12 億 6,000 万円
2 企業債	発行限度額を 4 億円とします。また、借入額は当該年度の償還元金以内とします。	3 億 3,900 万円
3 下水道使用料	下水道使用料は現状を踏まえ、人口動向に基づき積算した額とします。	13 億 5,900 万円 （前年度比↑0.74%）

上表に示すように、下水道事業中長期経営計画における各項目は上回っています。全体評価としては、前期 5 年間で収益的収支において 29 年度から計画を超える利益が生じていることや資本的収支において僅かではありますが、計画における収支不足が少なく済んでいることが挙げられます。引き続き、健全で安定した継続的な事業経営と経営基盤の強化を図ります。

## 実施計画における令和 5 年度までの見込み（下水道事業）

上下水道部では、令和 2 年度に令和 3 年度から令和 5 年度までの実施計画を立てています。実施計画では、平成 28 年度に策定された下水道事業中長期経営計画で試算されている下水道使用料の改定（令和 5 年度）を前提としておらず、あくまで参考の数値です。

下水道事業中長期経営計画の財源の考え方と実施計画における令和 4 年度、5 年度の状況を比較すると次のとおりです。

### 【財源の見込み】

項 目	内 容	令和 4 年度	令和 5 年度
1 自己資金 (内部留保資金)	令和 8 年度末に残高 7 億円を確保します。	14 億 2,300 万円	16 億 5,600 万円
2 企業債	発行限度額を 4 億円とします。また、借入額は当該年度の償還元金以内とします。	3 億 4,500 万円	2 億 7,000 万円
3 下水道使用料	下水道使用料は現状を踏まえ、人口動向に基づき積算した額とします。	13 億 4,200 万円 (前年度比↓1.2%)	13 億 4,200 万円 (前年度と同じ)

実施計画では、財源の見込みの項目は概ね達成する見込みです。

今後、あらためて令和 4 年度から令和 8 年度までの「投資試算」と「財源試算」を比べ、投資に対し財源が不足するという「収支ギャップ」の有無を確認し、投資試算と財源試算との間に収支ギャップが生じた場合は、収支ギャップの解消に取り組みます。